

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第39週
(9月22日～9月28日)

- * 2008年10月1日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「ウイルス性肝炎（E型肝炎およびA型肝炎を除く）」も掲載しています。

平成20(2008)年10月2日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年39週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		36週	37週	38週	39週		39週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	69	76	46	58	3213	261	19962
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ					5		42
	細菌性赤痢	1	1	3	3	49	3	239
	腸管出血性大腸菌感染症	22	27	13	6	311	59	3497
	腸チフス	1	1		1	9	2	39
	パラチフス					5		23
四類	E型肝炎					6		33
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	2			25	1	141
	エキノкокクス症							10
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5	1	124
	デング熱	5				23	2	68
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						5	60
	日本脳炎						1	2
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							1
マラリア	1	3		1	19	3	40	
野兎病							4	
ライム病							4	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	2	2		1	59	12	667	
レプトスピラ症	1		1	1	3	1	14	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		36週	37週	38週	39週	年累計	39週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	3	3	5	144	10	640
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)			1		24	1	171
	急性脳炎 ***					7	1	143
	クリプトスポリジウム症			1		3		7
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		12	1	113
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1			18	1	93
	後天性免疫不全症候群	8	7	12	6	401	17	1111
	ジアルジア症	1		1		19		62
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		10
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	10	3	1	4	149	5	614
	破傷風					4	1	88
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					10		62
	風しん			1	1	39	1	276
麻しん	5	4	2	1	1149	12	10810	
2008/10/1集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 58件 肺結核40件、その他18件で、推定感染地は国内56件、ミャンマー1件、モンゴル1件。年齢は10歳代1件、20歳代9件、30歳代8件、40歳代6件、50歳代10件、60歳代5件、70歳代11件、80歳代7件、90歳代1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 3件 すべてソネットで、推定感染地は中国、カンボジア、インド、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、不明1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 6件 有症状者3件、無症状病原体保有者3件で、血清型・毒素型はO157(VT2)3件、O157(毒素型不明)2件、O26(VT1)1件であった。年齢は10歳未満1件、10歳代1件、20歳代1件、30歳代1件、50歳代1件、70歳代1件であった。O157(VT2)の10歳未満1件でHUSの発症があった。

腸チフス 1件 推定感染地はバングラデシュで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

〈四類感染症〉

マラリア 1件 熱帯熱マラリアで、推定感染地はガーナであった。

レジオネラ症 1件 肺炎型の60歳代男性で、推定感染地は国内、推定感染経路は水系感染(温泉)であった。

レプトスピラ症 1件 職場(飲食店)での感染が疑われている。レプトスピラ症は最近4週間(36~39週)で3件報告されており、いずれも都内で感染した可能性がある。ネズミ類等保菌動物との直接・間接の接触には注意が必要である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 腸管外アメーバ症4件、腸管及び腸管外アメーバ症1件で、推定感染地は国内4件、インドネシア1件、推定感染経路は同性間性的接触2件、飲食物による経口感染2件、不明1件であった。

後天性免疫不全症候群 6件 無症候キャリア5件、その他1件で、推定感染地は国内5件、フランス1件、推定感染経路はすべて性的接触(同性間4件、異性間1件、両性間1件)であった。

梅毒 4件 早期顕症Ⅱ期3件、無症候梅毒1件で、推定感染地は国内1件、国内/アメリカ1件、不明2件、推定感染経路は性的接触2件(同性間1件、異性間1件)、不明2件であった。

風しん 1件 検査診断例の10歳代男性。風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 1件 麻しん(臨床診断例)で5歳未満。麻しん含有ワクチン接種歴は1回であった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年39週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		36週	37週	38週	39週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	21	40	40	56	0.38	146	150
	咽頭結膜熱	61	49	40	33	0.23		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	128	110	177	1.21		
	感染性胃腸炎	465	486	444	470	3.22		
	水痘	64	54	54	74	0.51		
	手足口病	184	169	146	174	1.19		
	伝染性紅斑	7	9	12	10	0.07		
	突発性発しん	128	119	116	110	0.75		
	百日咳	5	1	3	4	0.03		
	ヘルパンギーナ	180	137	74	101	0.69		
	流行性耳下腺炎	49	65	88	75	0.51		
	不明発しん症 (注1)	15	16	19	15	0.10		
	MCLS(川崎病) (注1)	3	0	0	4	0.03		
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	4	2	7	10	0.04	283	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	3	0	0	0.00	38	39
	流行性角結膜炎	16	21	9	16	0.42		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	1	0	0	0	0.00	22	24
	無菌性髄膜炎	1	1	1	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	7	8	6	9	0.41		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	1	1	1	0.05		
2008/10/1集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻疹、成人麻疹は2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は増加し、過去の同時期と比較して高いレベルで推移している。例年の流行は冬にみられるが、今シーズンは早まっている可能性があり、注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

池袋保健所管内定点医療機関

・インフルエンザ症状の患者にインフルエンザ迅速検査を数回行ないましたが、全て(-)でした。

大田区保健所管内定点医療機関

・10才男子、カンピロバクター性腸炎。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年39週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	1		1	8	1			3	1	
～11か月	16	2	7	57	3	7	4	53		16
1歳	19	9	3	63	19	34	1	47		33
2歳	11	6	14	32	21	31	1	6		12
3歳	4	3	20	31	12	23	1	1		9
4歳	4	4	30	39	10	31	1			9
5歳		3	24	32	1	14	2			7
6歳		2	24	31	3	10				3
7歳	1	2	13	29	1	7				3
8歳			16	16	1	6				2
9歳		1	4	20	1	4				3
10～14歳		1	11	43	1	4			1	1
15～19歳			2	10						1
20～29歳			8	59		3			2	2
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	56	33	177	470	74	174	10	110	4	101
先週比	16	-7	67	26	20	28	-2	-6	1	27

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		3	2			
～11か月		7		1		
1歳	8	2				
2歳	4	1				
3歳	7			2		
4歳	8		1			
5歳	14	1	1	1		
6歳	6	1				1
7歳	10					1
8歳	3			1		
9歳	4					
10～14歳	7			2		1
15～19歳	3					1
20～29歳	1			1		2
30～39歳				1		6
40～49歳				1		2
50～59歳						
60～69歳						1
70～79歳						1
80歳以上						
合計	75	15	4	10		16
先週比	-13	-4	4	3		7

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2008年39週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		1
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳	1	
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	1

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年39週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田						6		1		
中央区			3	6	2	2		1		
みなと	17	3	6	16	2	4		3		11
新宿区	3		1	11	6	8	1	4		
文京				2		5		2		
台東	7		23	1			1	1		5
墨田区			14	1	4	4		1		
江東区			4	47	3	5		4		6
品川区	5		3	36	4	14		7		10
目黒区						2				
大田区	19	12	3	36		10	1	5	1	8
世田谷	1		4	27	3	8		7		6
渋谷区			2	14	1	4		2		4
中野区			4	31	2	5		1	1	4
杉並		4	3	38		9		4		1
池袋			1	4				1		
北区			2	8		5		5		1
荒川区	1	1	10	7	2	3		5		
板橋区				10	4	5		3		
練馬区		1	1	5	1	4		5		9
足立		2	3	14	4	1		3		1
葛飾区			2	5	1	10	1	2		2
江戸川	1		21	5	7	7		3		5
八王子市		5	18	41	11	9	1	5		5
西多摩	1		4	12				5	1	
南多摩	1	1	1	12		4		3	1	4
町田		1	27	17	5	17	5	5		11
多摩立川			4	11	1			2		
多摩府中			4	22	7	20		9		1
多摩小平		3	9	31	3	3		11		7
島しょ					1					
東京都合計	56	33	177	470	74	174	10	110	4	101

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年39週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区			1			
みなと			1			
新宿区		2				3
文京						
台東	5					
墨田区						
江東区	3	1				
品川区	2					
目黒区	2					
大田区	9	2				1
世田谷	3					
渋谷区	3					
中野区	1			4		
杉並	1					
池袋						
北区	1					1
荒川区	9	1	1			1
板橋区		1				
練馬区	2	1				
足立	3					3
葛飾区	2					
江戸川	5			3		1
八王子市	2	3		1		
西多摩	1					
南多摩	1					
町田	13	1		2		
多摩立川	3	1				
多摩府中	1					2
多摩小平	3	2	1			4
島しょ						

東京都合計	75	15	4	10	-	16
-------	----	----	---	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		1
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区	1	
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	1	1
-------	---	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年39週

定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田						3.00		0.50		
中央区			1.00	2.00	0.67	0.67		0.33		
みなと	2.83	0.50	1.00	2.67	0.33	0.67		0.50		1.83
新宿区	0.50		0.17	1.83	1.00	1.33	0.17	0.67		
文京				0.67		1.67		0.67		
台東	2.33		7.67	0.33			0.33	0.33		1.67
墨田区			4.67	0.33	1.33	1.33		0.33		
江東区			1.00	11.75	0.75	1.25		1.00		1.50
品川区	0.83		0.50	6.00	0.67	2.33		1.17		1.67
目黒区						0.67				
大田区	2.11	1.33	0.33	4.00		1.11	0.11	0.56	0.11	0.89
世田谷	0.13		0.50	3.38	0.38	1.00		0.88		0.75
渋谷区			0.50	3.50	0.25	1.00		0.50		1.00
中野区			0.67	5.17	0.33	0.83		0.17	0.17	0.67
杉並		0.67	0.50	6.33		1.50		0.67		0.17
池袋			0.33	1.33				0.33		
北区			0.50	2.00		1.25		1.25		0.25
荒川区	0.50	0.50	5.00	3.50	1.00	1.50		2.50		
板橋区				1.67	0.67	0.83		0.50		
練馬区		0.20	0.20	1.00	0.20	0.80		1.00		1.80
足立		0.40	0.60	2.80	0.80	0.20		0.60		0.20
葛飾区			0.50	1.25	0.25	2.50	0.25	0.50		0.50
江戸川	0.20		4.20	1.00	1.40	1.40		0.60		1.00
八王子市		1.25	4.50	10.25	2.75	2.25	0.25	1.25		1.25
西多摩										
南多摩	0.25	0.25	0.25	3.00		1.00		0.75	0.25	1.00
町田		0.25	6.75	4.25	1.25	4.25	1.25	1.25		2.75
多摩立川			0.67	1.83	0.17			0.33		
多摩府中			0.40	2.20	0.70	2.00		0.90		0.10
多摩小平		0.50	1.50	5.17	0.50	0.50		1.83		1.17
島しょ					1.00					

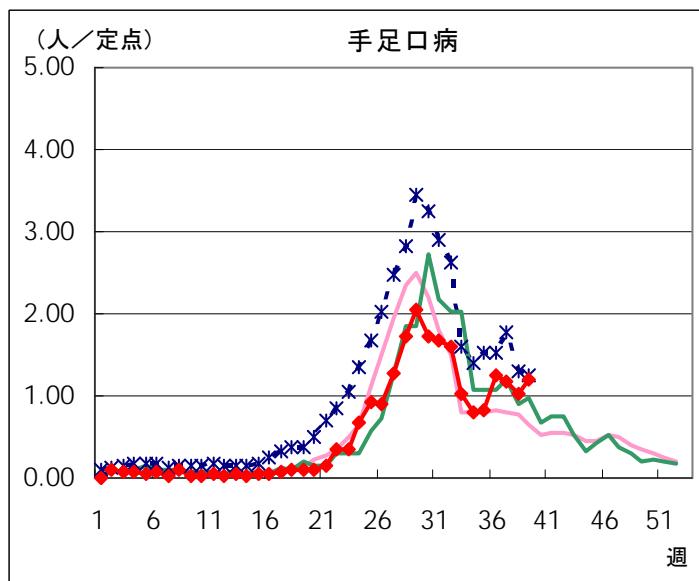
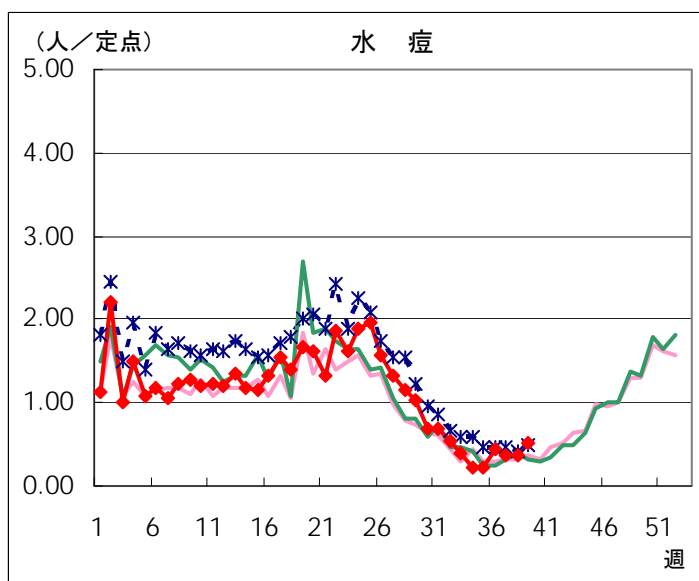
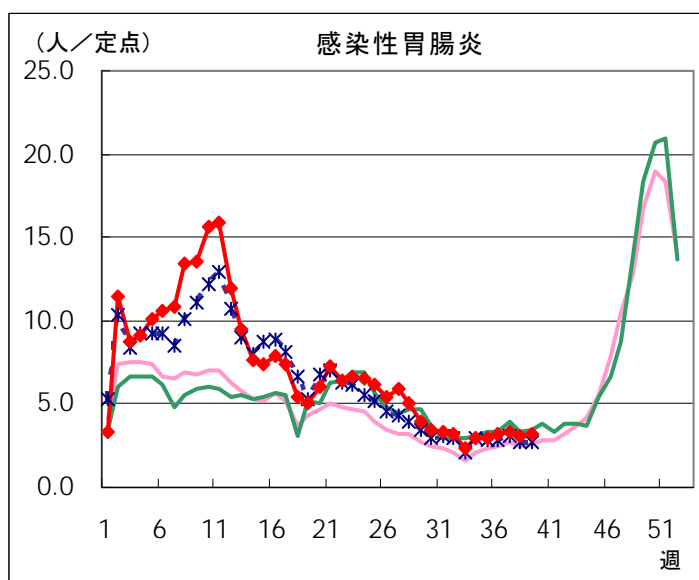
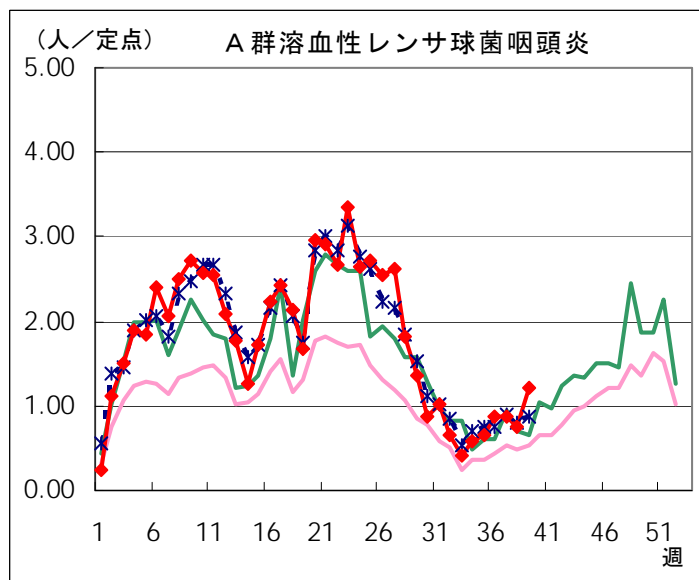
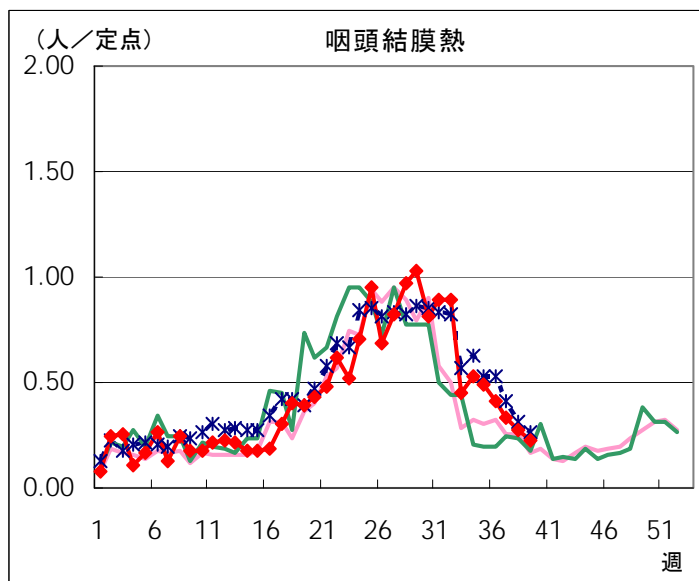
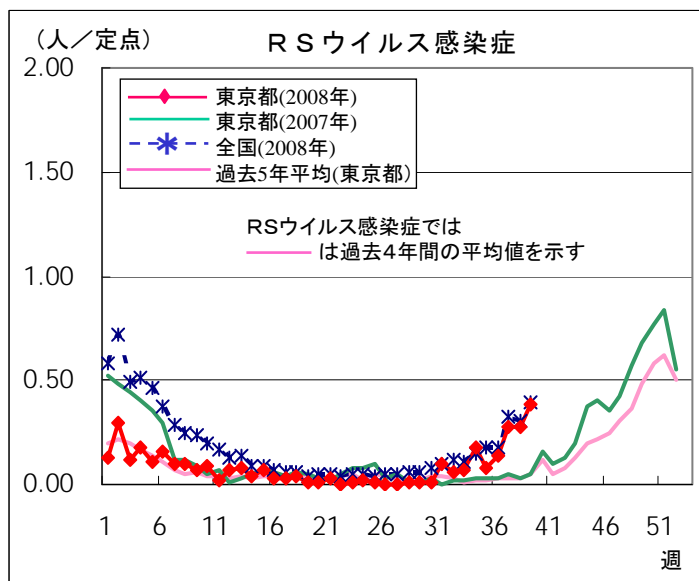
東京都	0.38	0.23	1.21	3.22	0.51	1.19	0.07	0.75	0.03	0.69
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

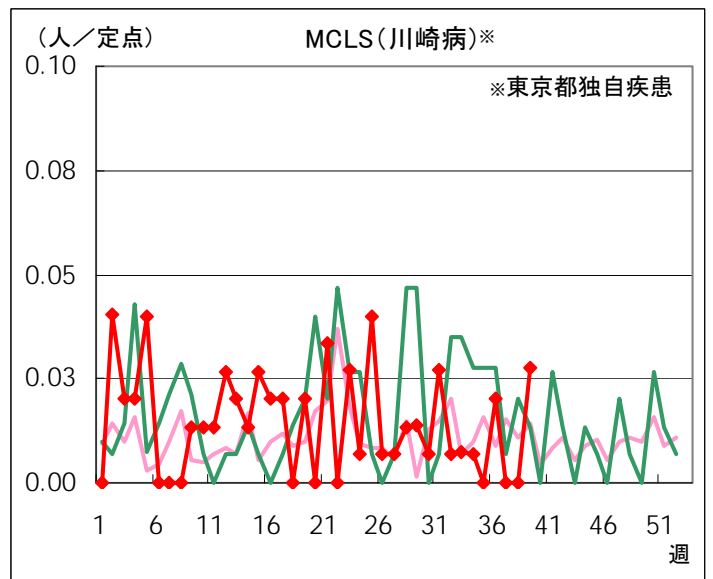
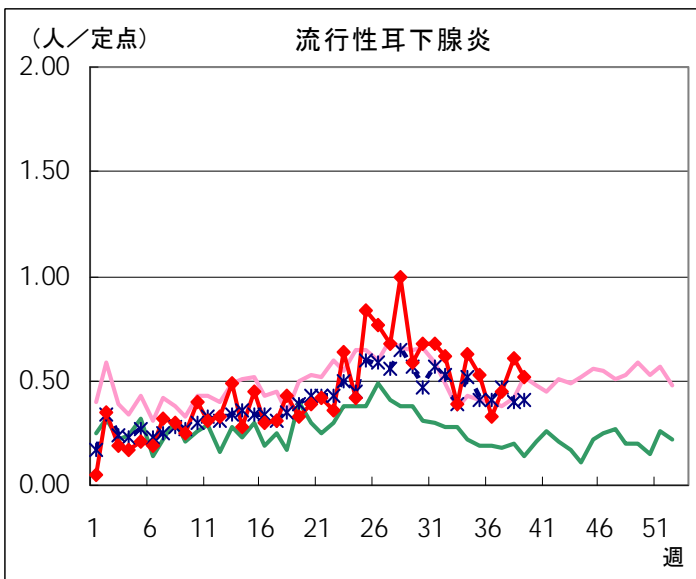
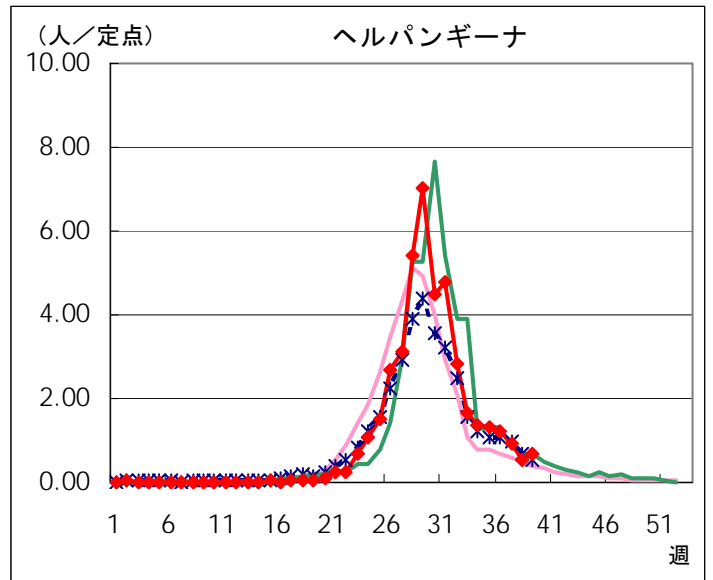
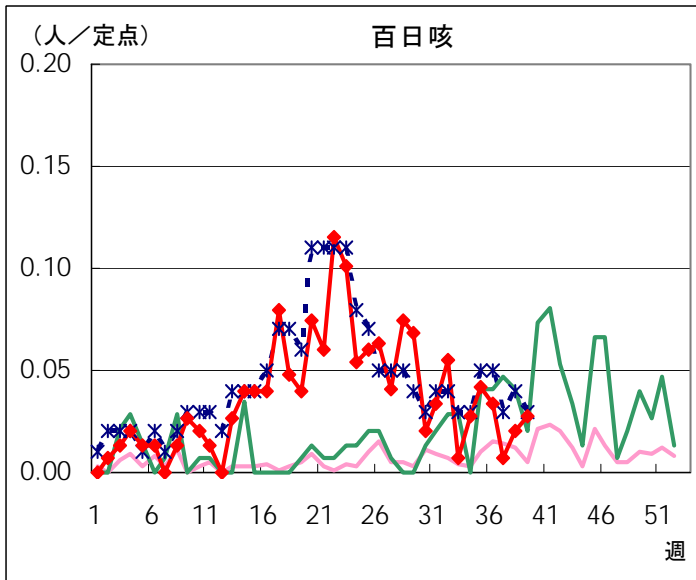
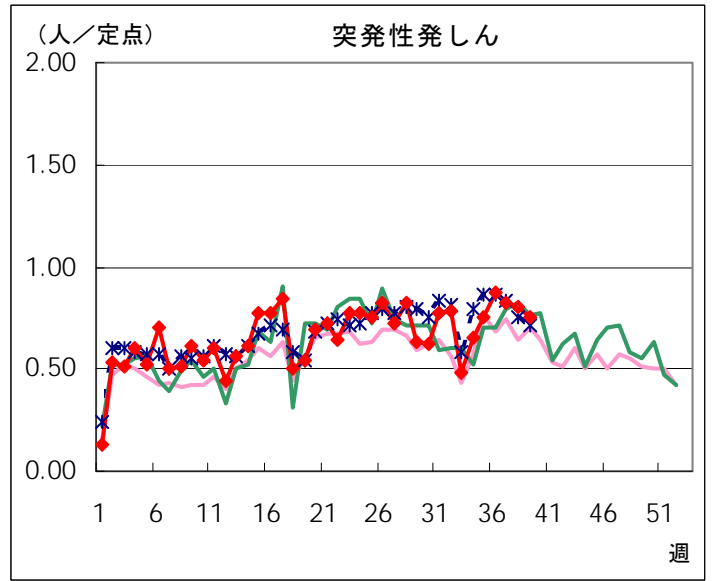
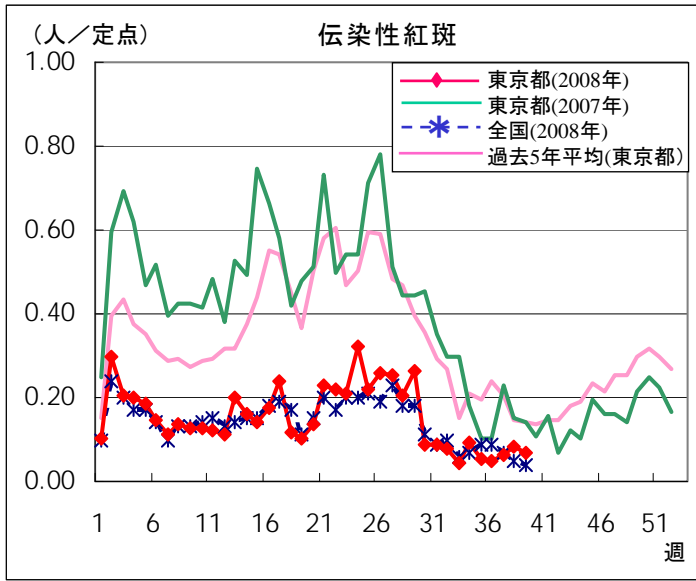
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区			0.33			
みなと			0.17			
新宿区		0.33				1.50
文京						
台東	1.67					
墨田区						
江東区	0.75	0.25				
品川区	0.33					
目黒区	0.67					
大田区	1.00	0.22				0.50
世田谷	0.38					
渋谷区	0.75					
中野区	0.17			0.44		
杉並	0.17					
池袋						
北区	0.25					1.00
荒川区	4.50	0.50	0.50			1.00
板橋区		0.17				
練馬区	0.40	0.20				
足立	0.60					1.50
葛飾区	0.50					
江戸川	1.00			0.25		0.50
八王子市	0.50	0.75		0.10		
西多摩						
南多摩	0.25					
町田	3.25	0.25		0.22		
多摩立川	0.50	0.17				
多摩府中	0.10					1.00
多摩小平	0.50	0.33	0.17			2.00
島しょ						

東京都	0.51	0.10	0.03	0.04	-	0.42
-----	------	------	------	------	---	------

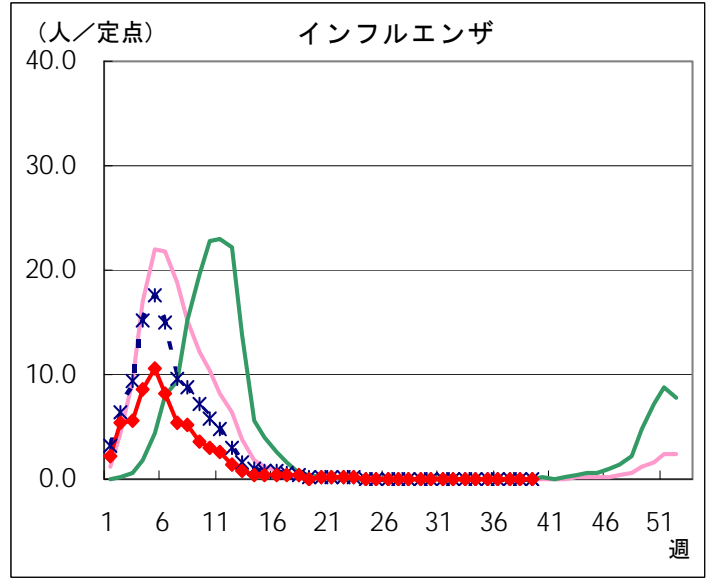
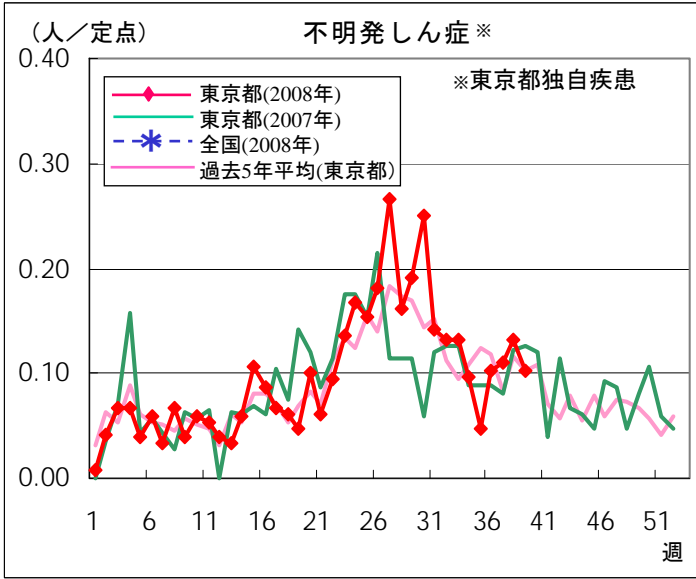
定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年39週現在

◆ 小児科定点

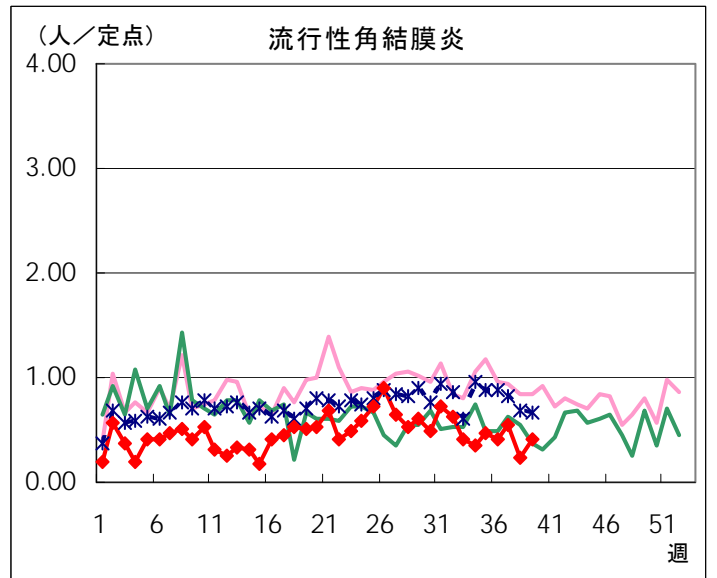
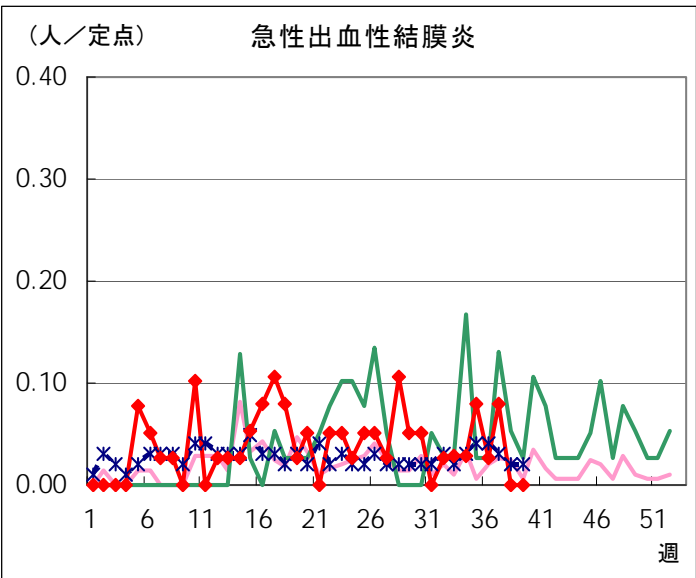




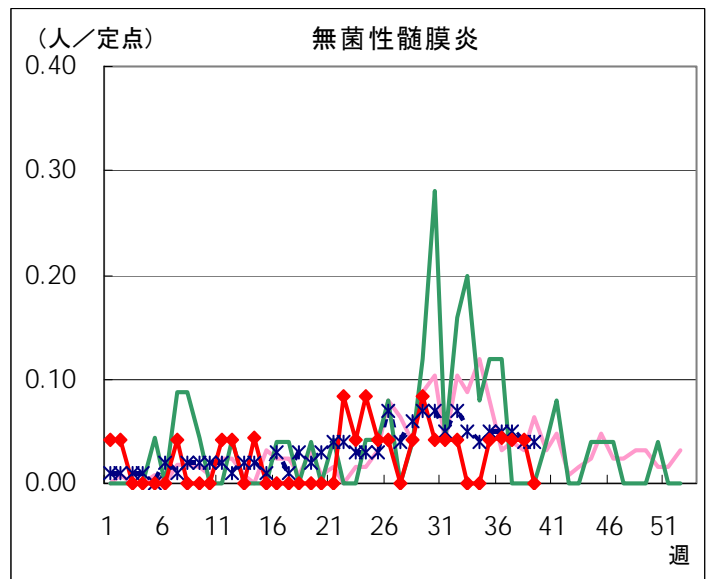
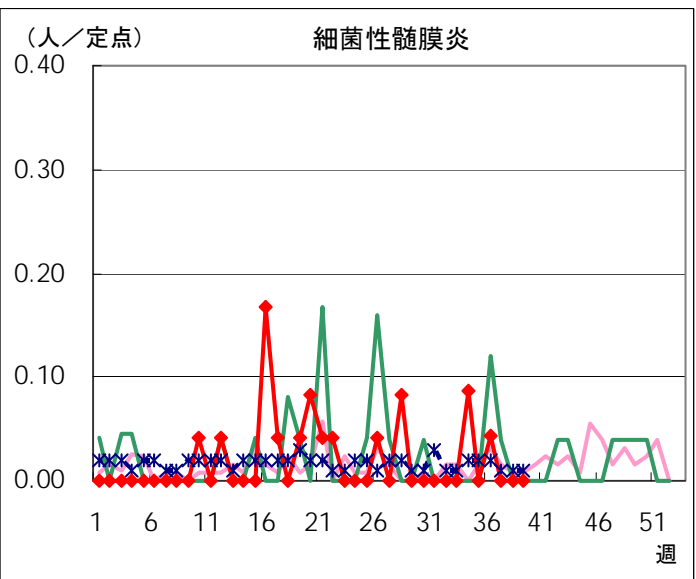
◆ インフルエンザ定点

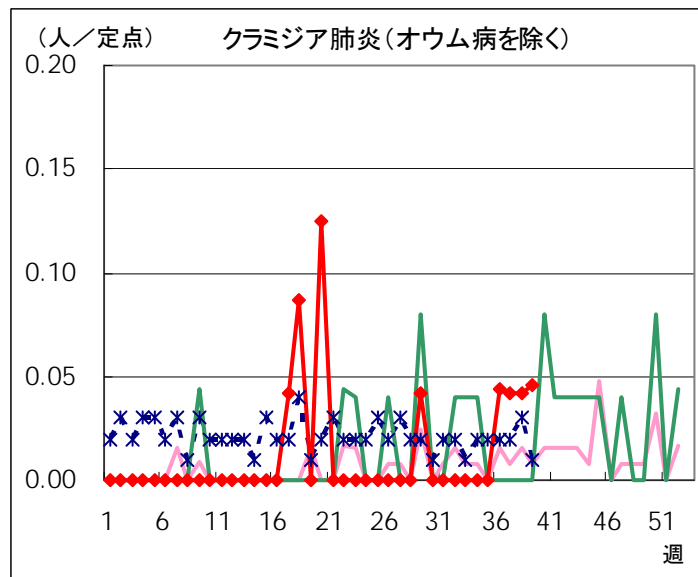
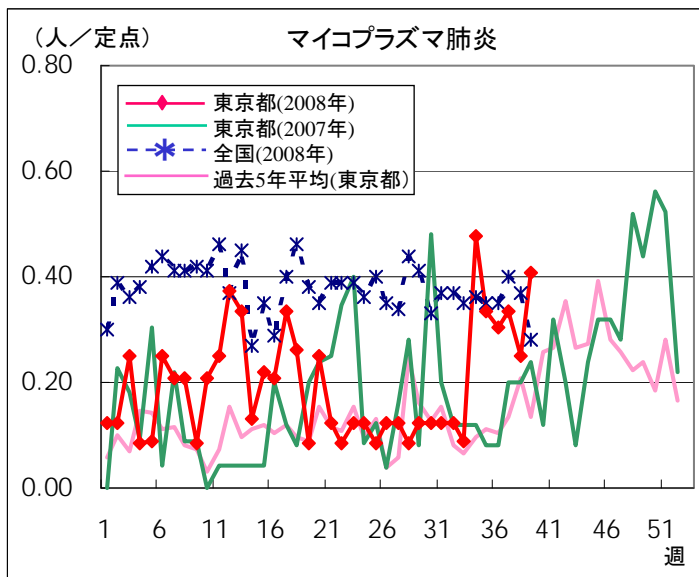


◆ 眼科定点

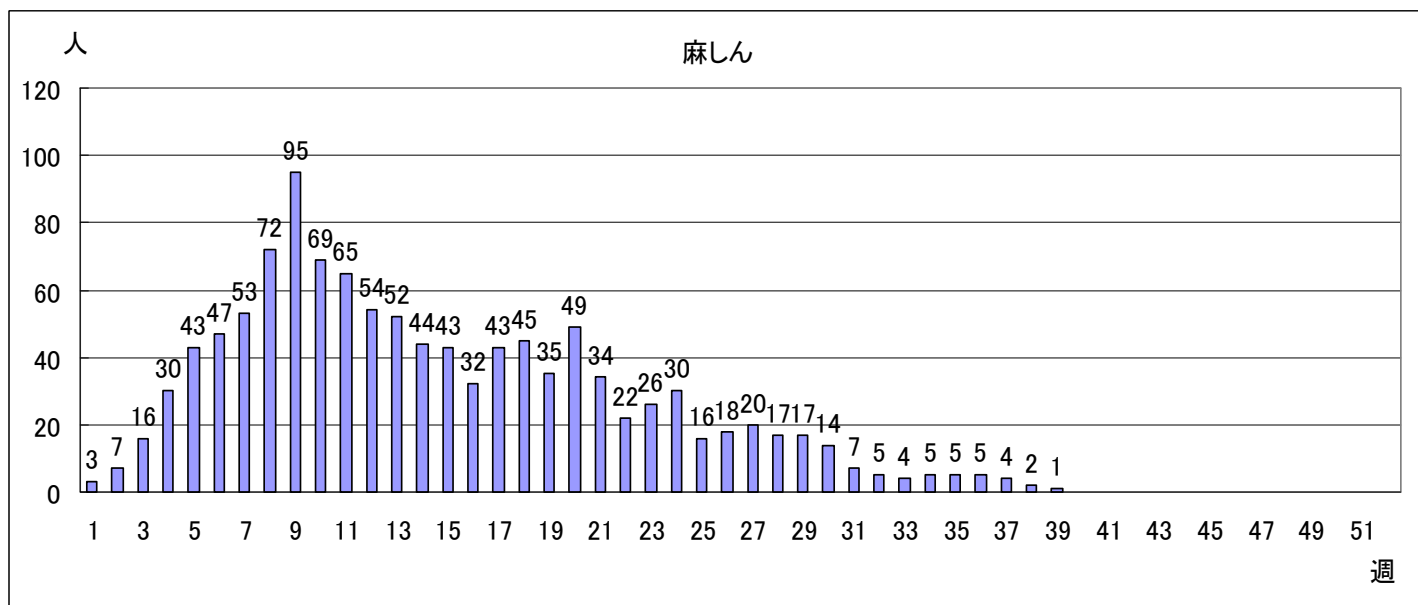


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年39週現在



病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/28	肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス	遺伝子
8/28	咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス	
8/30	溶連菌感染症	3	咽頭(菌株)	<i>S.pyogenes</i> 25型	血清型
9/3	肺炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子
9/3	肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
9/3	肺炎	3	咽頭拭い液	RSウイルス	
9/3	手足口病	9	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/3	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/6	不明発しん症	39	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/6	溶連菌感染症	3	咽頭拭い液	<i>S.pyogenes</i> 4型 MSSA	
9/8	肺炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス RSウイルス	遺伝子
9/9	新生児感染症	0	糞便	エンテロウイルス	
9/9	発熱、突発性発しん	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス7型 EBウイルス	
9/11	急性肺炎	4M	咽頭拭い液	エンテロウイルス EBウイルス	
9/12	west症候群 ウイルス性肝障害	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス EBウイルス	
9/12	感染性胃腸炎	7	直腸拭い液	ノロウイルスG II	
9/12	不明熱	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
9/12	急性気管支炎	4	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型	
9/13	咽頭炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
9/13	肺炎、嘔吐	3	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子
9/15	不明発しん症	11M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
9/16	上気道炎	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	
9/16	急性気管支炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス RSウイルス	
9/17	発しん	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/18	頸部リンパ節炎	5	咽頭拭い液	EBウイルス	
9/18	急性咽頭炎	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
9/18	急性扁桃炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/18	咽頭結膜熱	8	咽頭拭い液	アデノウイルス	
9/18	急性咽頭気管支炎	記載無し	記載無し	エンテロウイルス	
9/18	上気道炎、紅班	4	咽頭拭い液	アデノウイルス EBウイルス	
9/18	発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
記載無し	熱性けいれん重積	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
9/3	レジオネラ症	64	喀痰(菌株)	<i>L.pneumophila</i> SG1	血清型

* 36週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週
ウイルス	アデノウイルス	7	2	2	11	14	9	5	5
	ライノウイルス	2		1	1	2	3	3	4
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	25	22	10	8	19	10	6	15
	単純ヘルペスウイルス	1	1					1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス							1	
	ヘルペスウイルス6/7	5	3		8	3	2	9	3
	EBウイルス	4	2	2		2	3	3	5
	サイトメガロウイルス		3	2	1	1	4	2	1
	ムンプスウイルス	2	3	2		2	1	1	
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	2						1	
	RSウイルス	1		1	1	1			6
	ノロウイルス				2				1
	ロタウイルス	1	1		1				
	インフルエンザウイルスAH1								
インフルエンザウイルスAH3									
インフルエンザウイルスB							1		
デングウイルス	2								
その他のウイルス	1	6		2			2	1	
細菌	カンピロバクター						1		
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌	1	1						
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌		3	3		1		1	2
	その他の細菌	2	1	4	1				2
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年31週～38週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		79	48	36	53	10	11	6	8	13	3	31	13	2			196	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		12	4	5	1	9	1		2		4	3				14	
	ライノウイルス		5	3	1		1			1		2					3	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		21	12	11	8	3		9	8		11	3					29
	単純ヘルペスウイルス					1			1									1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	1
	ヘルペスウイルス6/7		4						2			9	1					17
	EBウイルス		4	2								1	1	2				11
	サイトメガロウイルス		2						1			5						6
	ムンプスウイルス					3								7				1
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											3						
	RSウイルス			10														
	ノロウイルス				3													
	ロタウイルス				3													
	インフルエンザウイルスAH1																	
	インフルエンザウイルスAH3																	
インフルエンザウイルスB		1																
デングウイルス					1												1	
その他のウイルス		7	3	2														
細 菌	カンピロバクター			1														
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌				2													
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌						10											
その他の細菌		7					1										2	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

ウイルス性肝炎（E型肝炎およびA型肝炎を除く）

ウイルス性肝炎（E型肝炎およびA型肝炎を除く）は、ウイルス感染を原因とする急性肝炎（B型肝炎、C型肝炎、その他のウイルス性肝炎）である。慢性肝疾患、無症候性キャリアおよびこれらの急性増悪例は含まない。

平成19年は東京都で40名の患者が報告されており、36件がB型肝炎、4件がC型肝炎であった。

感染経路は血液等の体液からの感染、母子感染、性的感染等が知られている。東京都では性的接触が75%程度、針刺し等による血液感染が5%程度である。

臨床的特徴は一般に全身倦怠感、感冒様症状、食欲不振、悪感、嘔吐等の症状で急性に発症し、数日後に褐色尿や黄疸を伴うことが多い。発熱、肝機能異常、その他の全身症状を呈する発病後間もない時期には、かぜや急性胃腸炎等と類似した症状を示す。

潜伏期間はB型肝炎では約3カ月間、C型肝炎では2週間から6カ月間である。臨床病型は、黄疸を伴う定型的急性肝炎の他に、顕性黄疸を示さない無黄疸性肝炎、高度の黄疸を呈する胆汁うっ滞性肝炎、急性肝不全症状を呈する劇症肝炎等に分類される。

診断は血清からB型肝炎はIgM HBc抗体の検出、C型肝炎は抗体陰性で、HCV RNA又はHCVコア抗原の検出、もしくはペア血清による抗体陽転または抗体価の有意の上昇により行う。

治療は安静及び食事療法が基本である。なお、B型急性肝炎に対し、ラミブジン等の抗ウイルス療法が有効であり、劇症化が疑われる症例に対しては早期に使用する。C型急性肝炎については、高率に慢性化することからインターフェロンが試みられている。

（文責：東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課 課務担当係長 中坪直樹）